

事 業 報 告

全学教育研究部門 事業報告

全学教育FDワークショップ

教養セミナー科目

開催日時 平成21年3月3日(火)

13:30~15:15

場所 全学教育講義棟103番教室(1階)

主 題 「学生による授業評価」からみた教養セミナー評価と今後の展望

趣 旨

教養セミナー委員会では、「学生による授業評価」や「教員アンケート」を行い、その結果を教養セミナーガイドライン等への掲載し、授業改善を図ってきている。今回は、「学生による授業評価」結果を中心に、経年的な評価結果の変容を分析するとともに、「教員アンケート」結果との比較を行い、現状と今後の課題を提案する。加えて、近年、大学学士課程に要求されている「学士力」という視点から、教養セミナーの役割や位置づけについても議論する。

なお、本ワークショップでは最初に、教養セミナー担当者(特に初任担当者)を対象として、教養セミナーに関する基本事項の説明と、実施の状況や実施面での課題を報告する。

参加対象者

平成21年度教養セミナー担当予定の教員、
教養セミナーに関心のある教員、
教養セミナー委員会委員

実施方法

1) 話題提供(30分)

「長崎大学教養セミナーの現状と課題」

教養セミナー委員会委員長 高橋正克

2) 話題提供(20分)

「学生による授業評価」からみた教養セミナー評価と今後の展望

「学士課程に要求される『学士力』という視点から見た教養セミナーの役割と位置づけ」

教養セミナー委員会委員長 高橋正克

3) 質疑応答ならびにディスカッション

出席者数:30名

外国語科目

開催日時 平成21年3月16日(月)

13:30~16:15

場 所 全学教育講義棟207番講義室
(第一部)

全学教育講義棟205番講義室
(第二部)

主 題 「授業外課題の質と量の検討—自立した学習者を求めて」

趣 旨

長崎大学において、主要な全学教育のひとつである外国語教育に関しては、より良い授業・教育を実践するために様々な取り組みをおこなってきている。近年では、短期留学プログラムや習熟度別クラスの編成と教育が実施されている。また、授業内容のコアな部分を保証する共通指導項目(英語)や共通シラバスが作成され、それに基づいた授業が展開されている。今回の外国語科目委員会FDでは、授業外での学生による学習の取り組みを促進、支援するために、「課題の質と量」という観点から議論し、さらなる外国語教育の改善を行っていきたい。

参加対象者

外国語科目委員会委員、全学教育「外国語科目」担当教員(平成21年度担当予定者も含む)、
「外国語科目」に関心のある教員

出席者:

プログラム

第1部:教育指導支援システム

(iPortfolioMaker)の実演・演習

司会進行 西原副委員長、井ノ上教員(大教センター:評価FD部門助教)

第2部:「授業外課題の質と量の検討—自立した学習者を求めて—」

司会進行 岡田教員(大教センター:評価FD部門准教授)、西原副委員長

出席者数:第一部 22名 第二部 20名

情報処理科目

開催日時 平成21年3月3日(火)

13:30~14:50

場 所 全学教育講義棟104番教室(1階)

主 題 「情報処理科目の現状と
今後について」

趣 旨

情報処理科目委員会では、2006年問題に対応して科目の追加等の改革を行ってきました。また、その後の経緯を注意深く見守ってきました。本年度、その結果を基に「情報教育プログラム検討WG」を立ち上げ、情報処理科目の内容の現状と今後のあり方について議論しています。

本FDでは、そのWGの検討内容を委員の方々にパネラーとして紹介戴くと共に、皆様と一緒にこの問題を考える機会を持つものです。

参加対象者

全学教育「情報処理入門」、「コンピュータ入門」担当教員(平成21年度担当予定者を含む)、情報処理科目委員会委員、情報教育プログラム検討WG委員、関係事務職員、「情報処理科目」に関心のある教員

プログラム

司 会

情報処理科目委員会委員長 黒川不二雄

パネラー

寺嶋浩介(教育学部)、伊藤潔(薬学部)、
藤村誠(工学部)、藤井美和子(大教センター)、
野崎剛一(情報メディア基盤センター)

参加者数 計 22名

(文責 高橋正克)

評価・FD研究部門 事業報告

1. はじめに

評価・FD研究部門では教育改善に関する種々の取り組みを行っている。本稿では、教育改善委員会と協力しながら企画・運営・支援を行っている「学生による授業評価」事業およびFD事業の実施概要を報告する。

2. 平成20年度『学生による授業評価』実施状況
2.1 概要

長崎大学では、平成14年度から全授業科目を対象として『学生による授業評価』を実施している。本学では、『学生による授業評価』を総括的に捉えるために表1のような全学共通項目を設けている。この全学共通項目に加え、全学教育（1～2年次生）においては科目別追加項目を、専門教育においては部局別追加項目をカテゴリ（評価項目の集まり）として設定している。さらに担当教員は、授業評価毎に個別の追加項目を加えることもできるようになっている。また、学生の選択肢は全ての設問に共通で表2のようになっている。

表1 全学共通項目

設問1 シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
設問2 授業は目的達成のため計画的に進められた。
設問3 授業担当者の教え方は適切だった。
設問4 授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行った。
設問5 自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
設問6 自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
設問7 総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。

表2 学生の選択肢

そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらともいえない
どちらかといえばそう思わない
そう思わない

2.2 受付状況および実施状況

平成20年度の受付状況および実施状況は表3に示す通りである。

表3 平成20年度の受付状況および実施状況

受付件数	4,568件
印刷枚数	174,119枚
実施件数	3,677件
回収枚数	118,836枚
回収率(%)	68.2%

表3よりわかる通り、平成20年度においては4,568件の申し込みがあり、事前の取り消しや未実施のものを除くと3,677件が実施された。また、総印刷枚数は174,119枚で、回収枚数(実際に回答された枚数)は118,836枚となっており、回収率は約68.2%であった。

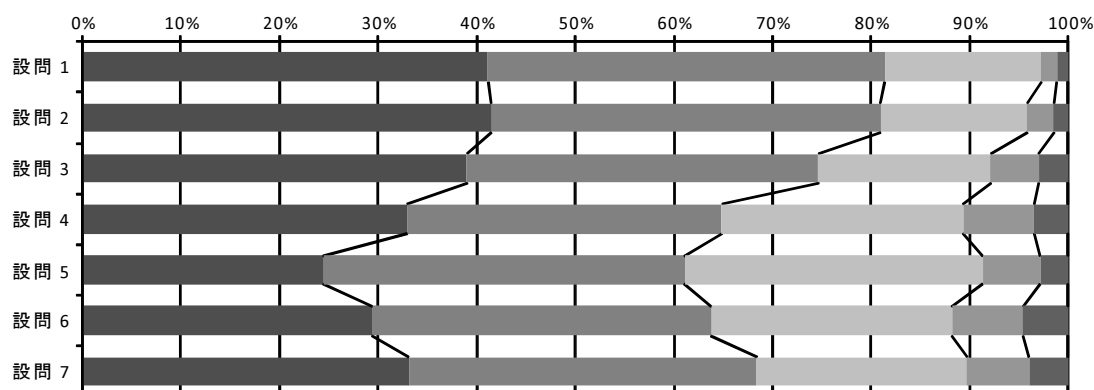
2.3 集計結果の概略

平成20年度に実施された授業評価3,677件の内、全学共通項目を含む授業評価1,785件の集計結果は表4、図1のようであった。

表4 全学共通項目を含む授業評価の集計結果

	5	4	3	2	1	総数
設問 1	33,376 41.1%	32,663 40.3%	12,844 15.8%	1,294 1.6%	947 1.2%	81,124 100.0%
設問 2	33,647 41.5%	32,017 39.5%	12,023 14.8%	2,186 2.7%	1,228 1.5%	81,101 100.0%
設問 3	31,628 39.0%	28,881 35.6%	14,125 17.4%	4,005 4.9%	2,391 3.0%	81,030 100.0%
設問 4	26,751 33.0%	25,793 31.8%	19,862 24.5%	5,835 7.2%	2,804 3.5%	81,045 100.0%
設問 5	19,815 24.5%	29,675 36.6%	24,521 30.3%	4,731 5.8%	2,289 2.8%	81,031 100.0%
設問 6	23,835 29.4%	27,864 34.4%	19,768 24.4%	5,840 7.2%	3,731 4.6%	81,038 100.0%
設問 7	26,845 33.2%	28,535 35.2%	17,271 21.3%	5,078 6.3%	3,232 4.0%	80,961 100.0%

5:そう思う, 4:どちらかといえばそう思う, 3:どちらともいえない,
2:どちらかといえばそう思わない, 1:そう思わない



5 5 そう思う 4 4 どちらかといえばそう思う 3 3 どちらともいえない 2 2 どちらかといえばそう思わない 1 1 そう思わない

図1 全学共通項目を含む授業評価の集計グラフ

参考資料

- [1] 長崎大学公式ページ『大学点検・評価』→『学生による授業評価』:
http://www.nagasaki-u.ac.jp/plan/pln_jug_hyoka.html
- [2] 長崎大学大学教育機能開発センター公式ページ『授業評価』:
<http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/modules/tinyd0/>

3. 平成 21 年に実施した「長崎大学FD」

「長崎大学FD」は全教員を対象として実施される。ここでは、平成 21 年 1 月から同年 12 月にかけて実施された教育改善委員会主催の「長崎大学FD」について報告する。

3.1 第 48 回長崎大学FD 「シラバスを書こう！ ～学生の学習支援のツールとして」

(1) 目的

本FDは、学生の学習効果を高めるシラバスの書き方を実際に学ぶことを目的としている。授業計画を示すシラバスは、学生にその授業全体の概要を知らせ、授業への心構えを持たせるうえでも非常に重要な役割をもつものであり、教員から学生に対して送られる事前メッセージの意味も持っている。つまり、シラバスとは教員と学生間のコミュニケーションツールであり、シラバスの書き方次第によって、学生の学習への心構えも変わってくるといえる。また、シラバスの作成は、教育マネジメントサイクルにおけるPDCAの各プロセスの中でも、最も重要なP（計画）段階に該当するものであり、このP段階をしっかりと構成していくことが、後の授業実践や評価においても非常に重要な意味をもってくる。そこで、大学教育機能開発センターでは、学生に伝わるシラバスの書き方を学ぶことを目的としたFDを実施し、学生に伝わるシラバスにするためのポイントを演習形式で行うことにより、参加者に実際に使えるシラバス作成のスキルを習得してもらうことを目指す。

(2) 対象者

参加を希望する全教職員（非常勤の教職員を含む）

(3) 日時

2009年1月7日（水）13:00～15:30

(4) 場所

全学教育棟 205 番教室

(5) 参加者数

26 名

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:10 ～ 14:00	「学生の学習を支援するシラバスの書き方」	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
14:00 ～ 15:15	演習「シラバスを書いてみよう」	
15:15 ～ 15:30	まとめ	

3.2 第 50 回長崎大学FD「ウェルカムFD」

新任教員を対象とした「ウェルカムFD」は、二日間かけて実施され、長崎大学及び教育活動に関する基礎知識を学ぶ初日と、長崎大学の歴史を学びつつキャンパスツアーを行う二日目とに分けられる。本FDの主たる目的としては、以下の二つがある。

- 1) 長崎大学が目指す教育・研究・社会貢献に関する基本的知識を得ること
- 2) 長崎大学の文化・歴史を知ることにより、大学への理解を深めてもらうこと

3.2.1 第一日「長崎大学が目指すもの」

(1) 目的

初日は、長崎大学の概要や教育活動に関する基礎知識としての教育・学習支援について学んでもらうことを目的とする。

(2) 対象者

平成 20 年 4 月 4 日から平成 21 年 4 月 1 日までに長崎大学に新たに赴任した教職員

(3) 日時

平成 21 年 4 月 2 日（木）13:00～17:10

(4) 場所

薬学部総合教育研究棟 2F 多目的ホール

(5) 参加者数

33 名

(6) プログラム

時間	内 容	講 師
13:00 ～ 13:20	挨拶・主旨説明	橋本健夫 理事 (教学担当)
13:20 ～ 13:50	特別講演：「長崎大学の今後の展望」	片峰 茂 学長

時間	内 容	講 師
第一部「長崎大学が目指すもの」		
13:50 ～ 14:10	「長崎大学の教育について」	橋本健夫 理事 (教学担当)
14:10 ～ 14:30	「長崎大学の研究について」	片峰 茂 学長
14:30 ～ 14:45	「知的財産関連」	安田英且 教授 (知的財産本部)
14:45 ～ 15:00	休 憩	
第二部「長崎大学の学習・教育支援」		
15:00 ～ 16:00	「長崎大学の学生の特徴・授業デザインについて」	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
16:00 ～ 16:30	「学生による授業評価について」	古賀掲維 准教授 (大学教育機能開発センター)
16:30 ～ 17:00	「学生支援・ハラスメント関連」	林田雅希 准教授 (保健・医療推進センター)

3.2.2 第二日 「長崎大学歴史散歩－150年をふりかえる」

(1) 目的

二日目は、長崎大学の歴史的遺構を巡るキャンパスツアー「長崎大学歴史散歩」を実施している。キャンパスツアーによって長崎大学の各キャンパスに残る歴史の流れを感じながら参加者の皆と共に歩く中で、長崎大学の一教員としてのアイデンティティを高め、また学内での相互交流のためのネットワーク形成を行うことを目的とする。

(2) 対象者

平成20年4月4日から平成21年4月1日までに長崎大学に新たに赴任した教職員

(3) 日 時

平成21年4月3日(金) 12:00～17:00

(4) 場 所

文教キャンパス、片淵キャンパス、坂本キャンパス

(5) 参加者数

31名

(6) プログラム

文教キャンパス(12:15-13:10)

場 所	講 師
薬学部①お菓の歴史資料館	中島 憲一郎 副学長(産学連携担当)
②生薬標本室	
③下村 脩名誉博士 顕彰記念館	黒田直敬 教授 (医歯薬学総合研究科)
環境科学部正門前(旧教養部)	橋本健夫 理事 (教学担当)
長崎師範原爆慰霊碑	
正門前：三菱兵器工場跡パネル	
中部講堂	下田研一班長(事務局学術情報部)
古写真資料室(附属図書館)	

片淵キャンパス(13:45-14:55)

場 所	講 師
特別講演：高商100年と武藤文庫(経済学部新館101教室)	東條 正 経済学部長
入り口の架橋	深浦厚之 教授 (経済学部)
長崎高商門標	
瓊林会館	
赤レンガ倉庫	

坂本キャンパス(15:25-16:45)

場 所	講 師
西洋医学史展示(附属図書館展示室)	平林 昇 主査(事務局学術情報部)
熱帯医学研究所ミュージアム	上村春樹講師(熱帯医学研究所)
原爆後障害医療研究施設2号館1階展示室	三根眞理子准教授(医歯薬学総合研究科)
総括(良順会館)	橋本健夫 理事 (教学担当)

3.3 第51回長崎大学FD「教育実践FD」

(1) 目的

本FDは、新任教員が授業を実施するための基本的事項について学ぶことを目的としている。計画から実施、評価に至る教育マネジメントサイクルの各プロセスのうち、授業を担当する個々の教員に求められる授業づくりの基本的な方法について理解を深める。

(2) 対象者

2009年4月に着任した教員, その他参加を希望する教員

(3) 日時

平成21年7月29日(水) 14:30~17:00

(4) 場所

第5会議室(教育学部2階)

(5) 参加者数

14名

(6) プログラム

時間	内容	講師
14:30 ~ 15:20	「授業づくりの基本的な方法を考える」(Plan)	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
15:20 ~ 16:00	「学生参加型の授業をどう作るか」(Do)	岡田佳子 准教授 (大学教育機能開発センター)
16:10 ~ 17:00	「成績評価(Check)について」	吉村 宰 准教授 (アドミッションセンター)

(5) 参加者数

のべ107名

(6) プログラム

日程	時間	題目	講師
9/7 (月)	10:00 ~ 12:00	マインド・マップを作ってみよう ~情報整理のツールとして~(Do)	ルール・ドーン・ミシエル 講師(大学教育機能開発センター)
	13:00 ~ 15:00	長崎大学の教育改善を考える FD/SD ワークショップ 1 (Check-Action)	ファシリテーター: 岡田佳子 准教授(大学教育機能開発センター)
	15:15 ~ 17:15	長崎大学の教育改善を考える FD/SD ワークショップ 2 (Check-Action)	
9/8 (火)	13:00 ~ 15:00	現代大学生の態度と行動(Do)	半澤礼之 助教 (京都大学高等教育研究開発推進センター)
	15:15 ~ 17:15	授業改善必勝法: パワポ・映像, 話し方, 学生の意欲向上, メンタルヘルス(Do)	杉原真晃 講師 (山形大学高等教育研究企画センター)
9/10 (木)	10:00 ~ 12:00	学生参加型の授業づくりをするには(Do)	岡田佳子 准教授(大学教育機能開発センター)
	13:00 ~ 15:00	授業づくりに役立つ形成的評価の使い方(Check)	寺嶋浩介 准教授(教育学部)
	15:15 ~ 17:15	授業・研究発表に役立つ話し方スキルアップ講座(Do)	小田切めぐみ氏(日本語話しことば講師)

3.4 第52回長崎大学FD「FDサマーワークショップ」

(1) 目的

本ワークショップは, 教職員が授業の改善や自らの教育・研究能力を向上させることを目的として, 教育改善のためのスキルアップに役立つプログラムを提供する。これらのプログラムは, それぞれが教育マネジメントサイクルのPDCA (Plan-Do-Check-Action) という観点から構成されている。これによって, 各教職員が自らの実践をPDCAの観点から見直し, さらなる能力の向上を目指す機会を提供する。

(2) 対象者

参加を希望する全教職員(非常勤の教職員を含む)

(3) 日時

平成21年9月7日(月), 8日(火), 10日(木)

(4) 場所

教育学部2階 第5会議室

4. おわりに

本稿では, 大学教育機能開発センター評価・FD研究部門が関わる二つの事業「学生による授業評価」と「長崎大学FD」について, その実施概要について報告した。

(文責: 丹羽量久・古賀掲維・岡田佳子)

教育指導支援システム研究開発部門 事業報告

1. まえがき

大学教育機能開発センター教育指導支援システム研究開発部門は、平成20年度政策課題対応経費事業（教育改革）『初年次教育指導支援システム』を用いた教育改善の実践と展開を進めるにあたって、大学教育機能開発センターに3年間の時限付きで設けられた組織である。この事業は引き続き平成21年度から特別教育研究経費事業「先端的な教育支援システムとFD活動による地域の教育力向上プロジェクト」として進められている。

本事業では、多様化する学生への教育の質保証を目的として、教員の日々の教育活動を支援するために構築した「教育指導支援システム」を活用し、教育改善を長崎大学において実践するとともに、その成果を地域の教育力向上のために活用する計画としている。

「教育指導支援システム」の運用にあたって、当部門では、授業を担当する教員の負担を軽減するとともに、よりよい授業を学生に提供できるように、ICT(Information and Communication Technology)を活用した支援ツール「iPortfolioMaker」を提供し、その改良を継続するとともに、教員がこの「iPortfolioMaker」を容易に活用できるように種々の支援活動を実施している。さらに、他大学においても「教育指導支援システム」を利用して教育改善活動を進めることができるよう、継続的にその整備を進めている。

本稿では、「教育指導支援システム」の概要について述べたのち、教員や学生がシステムを容

易に活用できるように当部門が実施してきた種々の支援内容について報告する。

2. システムの概要

「教育指導支援システム」では、ICTを活用した支援ツール「iPortfolioMaker」を提供するとともに、それを活用する教員をさまざまな面から支援する。この「iPortfolioMaker」は、Webブラウザを使用し、講義資料、学生へのアンケートの質問と回答、レポート、指導記録等の授業資料を授業のポートフォリオ（図1）として電子的に収集・蓄積する機能を有する。教員は「iPortfolioMaker」に収集・蓄積した授業資料を取り出し、授業の改善活動に活用できる。「iPortfolioMaker」を用いると、学生のアンケートなどの回答の集計結果を簡単な操作で閲覧でき（図2）、クラス全体の学習状況の傾向などを容易に把握できる。

学生は履修している授業のポートフォリオに用意された授業資料を確認したり、レポートを提出したり、アンケートに回答する。それを授業の振り返りにも活用することができる。また、「iPortfolioMaker」は、コンピュータ教室以外で実施される授業に対応するため、携帯電話を使って学生が回答（図2）できる機能を有している。

当部門では、「教育指導支援システム」の運用体制を整え、「iPortfolioMaker」を実際の授業において利用しながら改良を進めるとともに、授業での活用方法の検討・研究、教員や学生への利用方法の支援・提案など総合的な活動を行っている。



図1 ポートフォリオへの情報の蓄積と分析

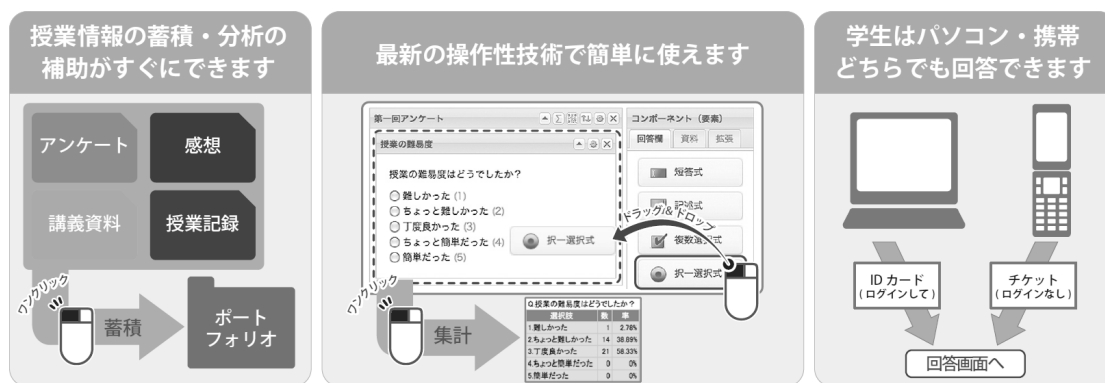


図2 iPortfolioMakerの特徴

3. 利用のための支援内容

「iPortfolioMaker」を利用するためには、アカウント（利用権）の取得、各授業の登録、履修学生の登録、ポートフォリオ作成のための操作手順の理解が必要となる。当部門においては、これらが容易に行えるように「iPortfolioMaker」の活用方法を習得するためのワークショップの開催、個々の教員からの問い合わせへの対応等、種々の支援活動を提供しており、その内容を以下に具体的に示す。

3.1 ワークショップの実施

教員向けの「iPortfolioMaker」活用のためのワークショップを平成21年1月より6ヶ月間で計13回開催した。各回の参加者数は表1の通りである。表中の「外国語FD」は、外国語科目委員会が企画・実施した「第49回長崎大学FD全学教育FDワークショップ（外国語科目）」において説明を行ったものである。

これらのワークショップは、「教育指導支援システム」の紹介、「iPortfolioMaker」の特徴・活用方法の説明、操作の体験（授業資料の配置方法やアンケートの作成・回答の閲覧方法など）、質疑応答から構成され、各回1～2時間ほどの時間で実施した。これらのワークショップでは図3に示すような資料一式を配布した。これらの資料は、「教育指導支援システム」の紹介した『説明資料』、Webブラウザでの「iPortfolioMaker」基本的な操作を記述した『ワークショップ手順書 基本編』、アンケート作成・講義資料配布・回答の確認などの方法を記述した『ワークシ

表1 ワークショップの実施状況

	開催日	参加者数
第1回	平成21年1月19日	15
第2回	平成21年2月13日	5
第3回	平成21年2月23日	2
第4回	平成21年3月13日	4
外国語FD	平成21年3月16日	21
第5回	平成21年3月27日	3
第6回	平成21年4月28日	1
第7回	平成21年5月12日	1
第8回	平成21年5月25日	4
第9回	平成21年6月5日	6
第10回	平成21年6月12日	2
第11回	平成21年6月19日	0
第12回	平成21年6月26日	1
計		65

ップ手順書 実用編』、アクセスに必要な情報を印刷した『利用者カード』、『学生向けのマニュアル』である。

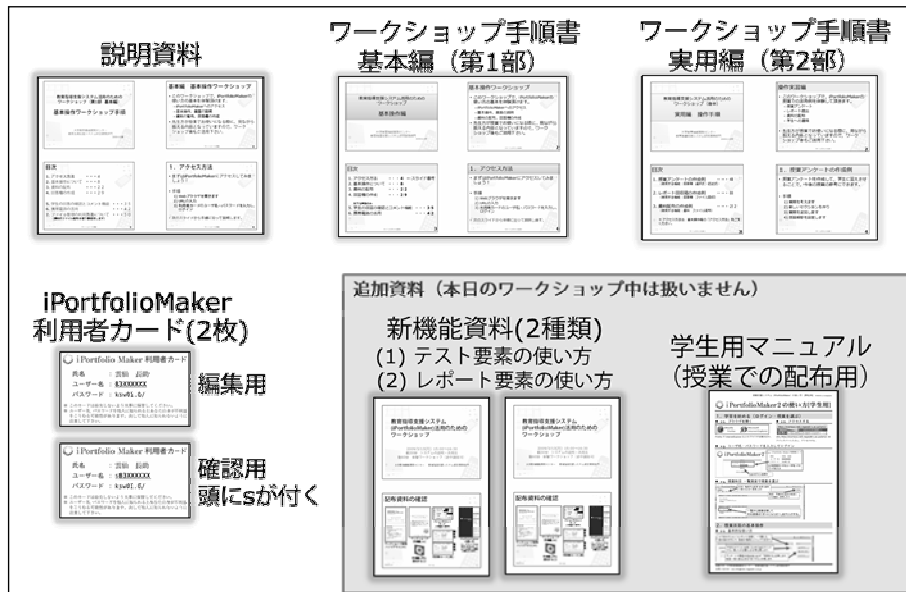


図3 ワークショップの配布資料一覧

3.2 教員への支援

「iPortfolioMaker」を利用する教員向けに、前述のワークショップ以外に、以下のような支援を行っている。

1) 教員用アカウント (利用権) の登録

教員からの利用申込みを受け、「iPortfolioMaker」にアカウントを登録したのち、『教員向けマニュアル』と『利用者カード』を送付している。

2) 『教員向けのマニュアル』(図4) の提供

教員向けの操作方法の解説書(80 ページ)を作成し、A4 版冊子にしたものをアカウント (利用権) 登録している教員全員に配布した。

また、電子版を Web サイト(<http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/ess/>)にて公開している。

3) 授業・履修学生の登録

教員からの授業登録の申込みを受けて、履修学生のための『学生向けマニュアル』(図5) と履修学生の『利用者カード』を送付している。教員はこれらを授業等で学生に配布し、利用させる。

4) 問い合わせ窓口の設置

窓口専用の電話・メールアドレスを用意し、1)~3)に対応するとともに、利用方法などに関する質問に回答している。

5) 教員向け個別対応

必要に応じて利用教員を訪ね、活用方法などに関する説明や提案を行っている。

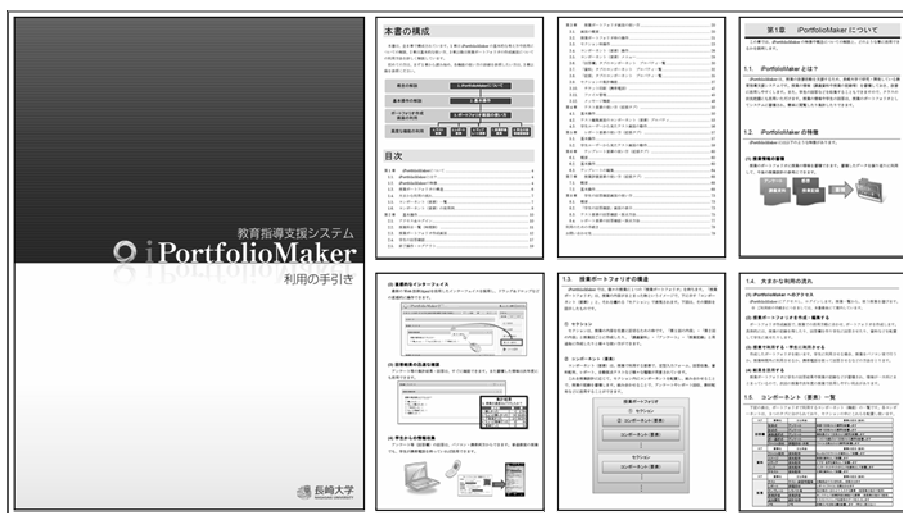


図4 教員向けマニュアル (全80ページから一部抜粋)

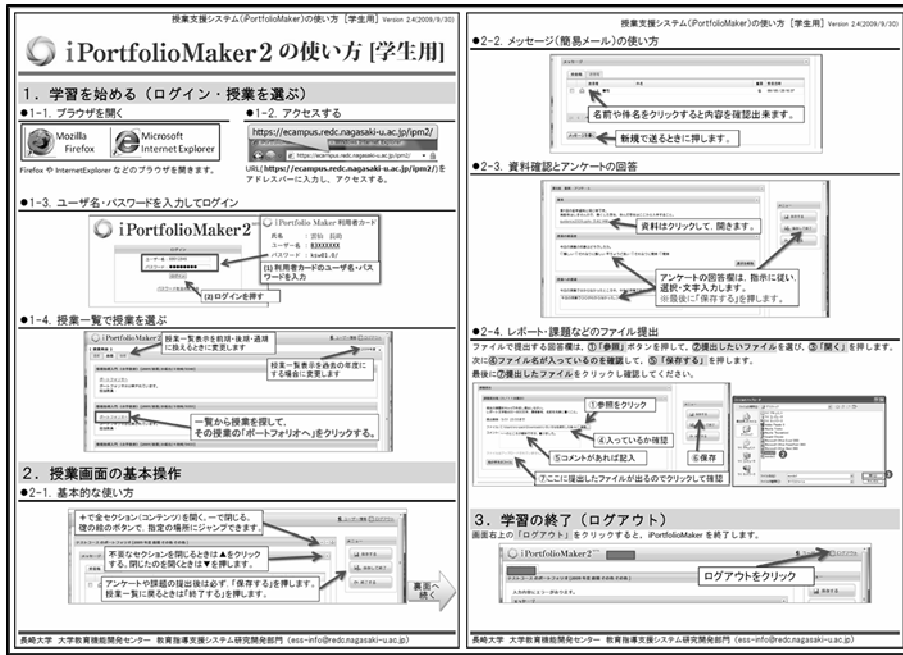


図5 学生向けマニュアル (A4版 2ページ)

3.3 学生への支援

学生に対しては、以下のような支援を行っている。

1) 利用者カードの再発行

授業の担当教員から配布される『利用者カード』を紛失・破損した場合は、当部門の窓口にて再発行している。

2) 『学生向けのマニュアル』(図5)の提供

学生が、授業のポートフォリオを利用するための操作説明書を作成し、リーフレットとWebサイト(<http://www.rede.nagasaki-u.ac.jp/ess/>)にて提供している。このマニュアルは当部門の窓口においても配布している。

3) 問い合わせ窓口設置

窓口専用のメールアドレス(教員向けと共通)を用意し、学生からの質問に回答している。

4. 「iPortfolioMaker」の登録状況

平成21年12月22日時点での「iPortfolioMaker」の登録状況は、表2および表3に示すとおりである。表2は累積登録者数で、教員88名、学生が3,281名であった。表3は各期で用いるために登録した授業(ポートフォリオ)の数で、合計122である。これらの登録授業を語学、ゼミ、情報、実技、それ以外の科目(他)の5つに分

類した場合、それぞれ44, 9, 31, 21, 17であった。

表2 登録者数(平成21年12月22日時点)

	教員	学生
学内	80	2,728
学外	8	553
計	88	3,281

表3 登録授業数(平成21年12月22日時点)

年度	学期	語学	ゼミ	情報	実技	他	計
2008	後期	19	3	9	4	2	37
	前期	14	4	10	4	6	38
2009	後期	11	1	12	13	8	45
	通期	0	1	0	0	1	2
計		44	9	31	21	17	122

5. 対外発表

教育指導支援システム研究開発部門では、「教育指導支援システム」のしくみや活用方法に関して様々な研究を行っており、その成果については国内学会や研究会での発表、および論文発表により、以下のとおり公表している。

- 1) 古賀掲維, 福田博之, 丹羽量久: “オープンソ

- ースを活用した教育改善システムの開発”,第9回問題解決環境ワークショップ論文集, PSE研究会, pp.65-70(2006)
- 2) 古賀掲維, 福田博之, 坂井慎吾, 直野公美, 丹羽量久: “PSE を用いた教育情報の収集・分析・可視化の試み”, 第10回問題解決環境ワークショップ論文集, PSE研究会, pp.34-39(2007)
 - 3) 坂井慎吾, 直野公美, 藤井美知子, 古賀掲維, 丹羽量久: “テキストマイニングによる授業開始時および授業中アンケートの分析”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.22, No.6, pp.23-28(2008)
 - 4) 直野公美・坂井慎吾・藤井美知子・古賀掲維・丹羽量久: ”テキストマイニングを利用した教育改善のためのアクション・リサーチの実践”, 教育システム情報学会第33回全国大会, C1-1(2008)
 - 5) 丹羽量久, 直野公美, 坂井慎吾, 藤井美知子, 古賀掲維: “教育情報のテキストマイニング分析を利用した教育改善活動の実践 ―一般情報処理科目における事例―”, 第57回九州地区大学一般教育研究協議会議事録, 九州地区大学一般教育研究会, pp.143-146(2008)
 - 6) 丹羽量久, 直野公美, 藤井美知子, 古賀掲維: “一般情報教育における授業中アンケートの活用”, 平成20年度情報教育研究集会, P-9(2008)
 - 7) 藤井美知子, 坂井慎吾, 直野公美, 古賀掲維, 丹羽量久: “アンケートの分析結果からみた一般情報処理教育”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.22, No.6, pp.29-32(2008)
 - 8) 直野公美, 坂井慎吾, 藤井美知子, 古賀掲維, 丹羽量久: “授業開始時アンケートの分析結果と学生の学習履歴の考察”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.22, No.6, pp.19-22(2008)
 - 9) 丹羽量久, 古賀掲維, 坂井一也, 新田高士: “XML をベースとしたテンプレート・エンジンを用いた教育情報蓄積システムの開発”, 第11回問題解決環境ワークショップ論文集, PSE研究会, pp.39-42(2008)
 - 10) 古賀掲維, 井ノ上憲司, 飛永三奈, 新田高士, 坂井一也, 直野公美, 藤井美知子, 丹羽量久: “継続的授業改善を可能とする教育指導支援システムの開発と授業実践”, 情報コミュニケーション学会 第6回全国大会(2009)
 - 11) 古賀掲維, 井ノ上憲司, 坂井一也, 新田高士, 飛永三奈, 直野公美, 藤井美知子, 丹羽量久: “教育指導支援システム「iPortfolioMaker」の開発”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.23, No.6, pp.78-83(2009)
 - 12) 丹羽量久, 藤井美知子, 直野公美, 井ノ上憲司, 古賀掲維: “教養科目「情報」における学生の情報リテラシー獲得履歴について”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.23, No.6, pp.168-171(2009)
 - 13) 丹羽量久, 藤井美知子, 直野公美, 井ノ上憲司, 古賀掲維: “科目「情報処理入門」におけるアンケートおよび課題成績を用いた文書作成スキルの分析”, 教育システム情報学会第34回全国大会講演論文集, pp.240-241(2009)
 - 14) 藤井美知子, 丹羽量久, 直野公美, 井ノ上憲司, 古賀掲維: “授業開始前における情報教育に関するアンケートとソフトの実利用技術の関係”, 教育システム情報学会第6回研究会, Vol.23, No6, pp.164-167(2009)
 - 15) 藤井美知子, 丹羽量久, 直野公美, 古賀掲維, 井ノ上憲司: “ソフト利用技術に着目した入学時と授業実施後における習熟度の把握”, 第58回九州地区大学一般教育研究協議会資料, 九州地区大学一般教育研究会, p.33(2009)
 - 16) 藤井美知子, 丹羽量久, 直野公美, 井ノ上憲司, 古賀掲維: “「情報処理入門」科目における学習者の状況把握のための調査・分析”, 平成21年度情報教育研究集会 講演論文集, A1-1(2009)
 - 17) 直野公美, 藤井美知子, 丹羽量久, 井ノ上憲司, 古賀掲維: “テキストマイニングを活用した授業理解度判定のためのアンケートの検討”, 教育システム情報学会研究会報告, Vol.23, No.6, pp.172-179(2009)
 - 18) 藤井美知子, 直野公美, 井ノ上憲司, 古賀掲維, 丹羽量久: “入学前の情報処理学習状況調査結果と「情報処理入門」科目授業における

理解度との関係”，長崎大学 大学教育機能開発センター紀要，No.1，pp.55-65(2010)

- 19) 丹羽量久，直野公美，井ノ上憲司，古賀掲維，藤井美知子：“「情報処理入門」科目における教育指導支援システム iPortfolioMaker を用いた授業アンケートの実施と文書作成スキルの習得状況の把握”，長崎大学 大学教育機能開発センター紀要，No.1，pp.67-80(2010)
- 20) 丹羽量久，直野公美，藤井美知子：“「情報処理入門」における教育指導支援システム iPortfolioMaker を用いた授業アンケートと授業へのフィードバック”，教育システム情報学会 第6回研究会(2010) (印刷中)
- 21) 藤井美知子，直野公美，丹羽量久：“「情報処理入門」科目における授業中の「教え合い」について”，情報コミュニケーション学会 第7回全国大会発表論文集，pp.36-37(2010)

6. あとがき

本稿では，教育指導支援システム研究開発部門において開発・運用中の「教育指導支援システム」および ICT を活用したツール「iPortfolioMaker」の概要について紹介した。次に，この「iPortfolioMaker」を利用するための支援活動としてワークショップの実施，および教員・学生への支援を取り上げ，それらの内容について詳述した。また，「iPortfolioMaker」への登録状況についてまとめた。最後に，当部門の研究活動の成果発表について報告した。

今後も，「教育指導支援システム」の周知を進めるとともに，開発・研究・支援を継続して行っていく。

(文責：丹羽量久・井ノ上憲司)